

社会生活基本調査 福井県の概要

◇ 生活行動編 ◇

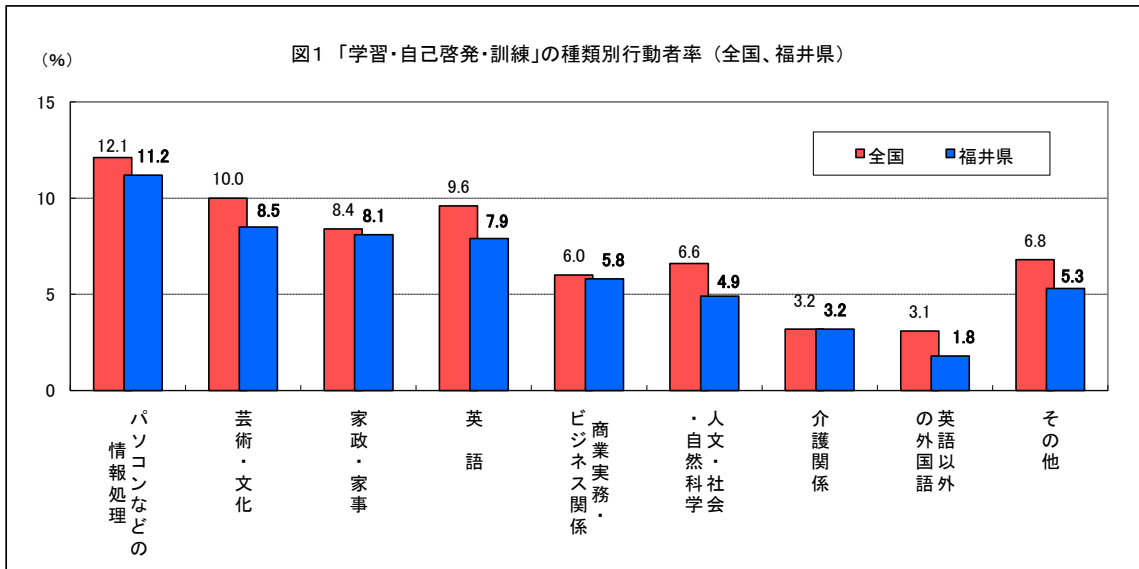
1. 学習・自己啓発・訓練

～ 男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」の行動者率がトップ～

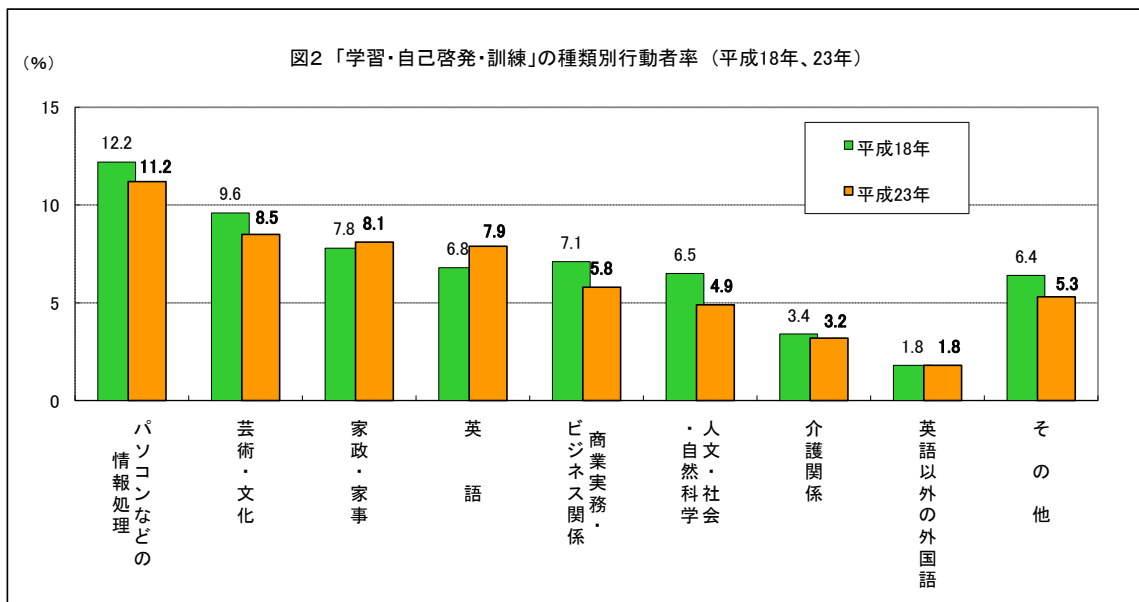
過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ）に「学習・自己啓発・訓練」を行った県民（10歳以上。以下同じ）は231千人、行動者率は32.1%（全国35.2%）で、平成18年（33.1%）より1.0ポイント低下した。

なお、行動者率の全国順位は19位で、平成18年と変わらない。

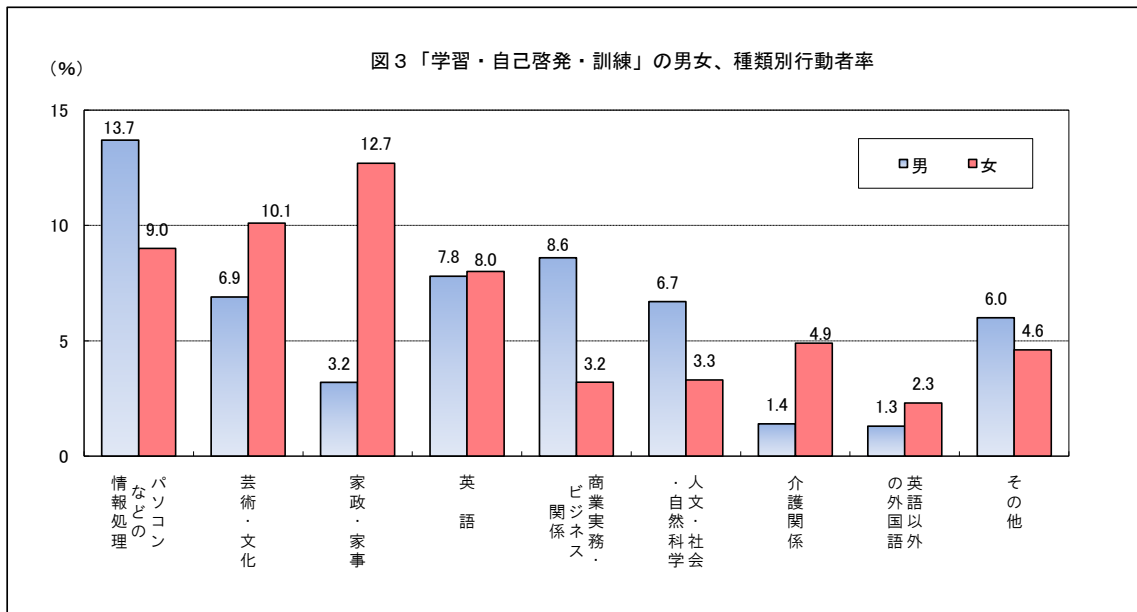
- (1) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を種類別に見ると、「パソコンなどの情報処理」が11.2%ともっとも高く、次いで「芸術・文化」が8.5%、「家政・家事」が8.1%などとなっている。
また、「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を全国平均と比べると、「パソコンなどの情報処理」で0.9ポイント下回っているほか、ほぼ全ての項目で下回っている。（図1）



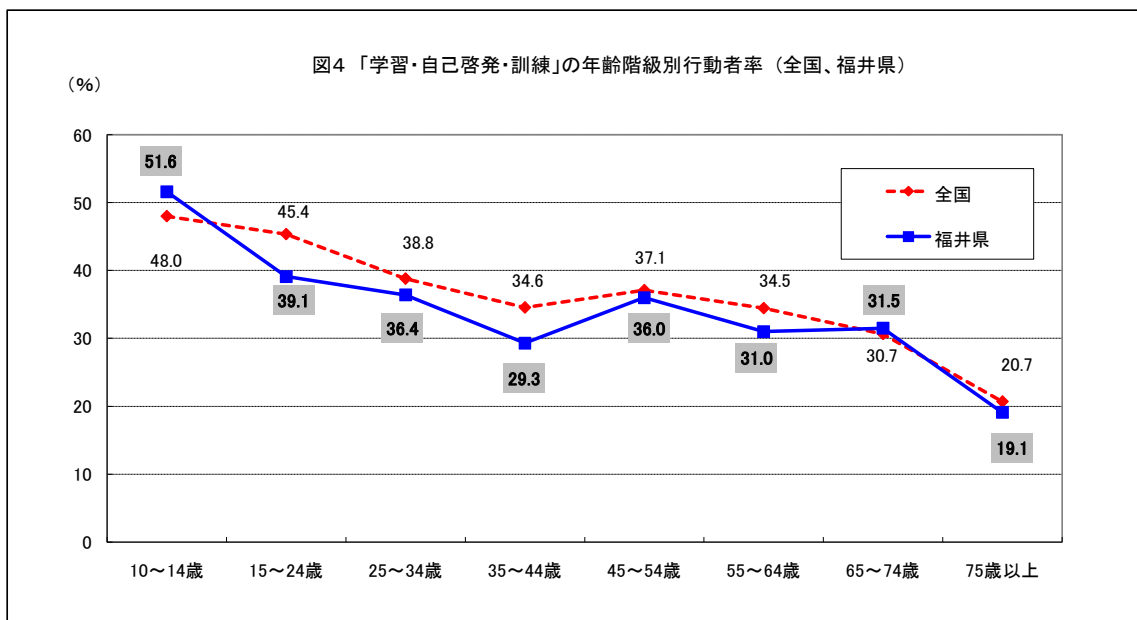
- (2) 平成18年と比べると、行動者率は、「パソコンなどの情報処理」が1.0%低下、「芸術・文化」が1.1ポイント低下、「家政・家事」が0.3ポイント上昇、「英語」が1.1ポイント上昇などとなっている。（図2）



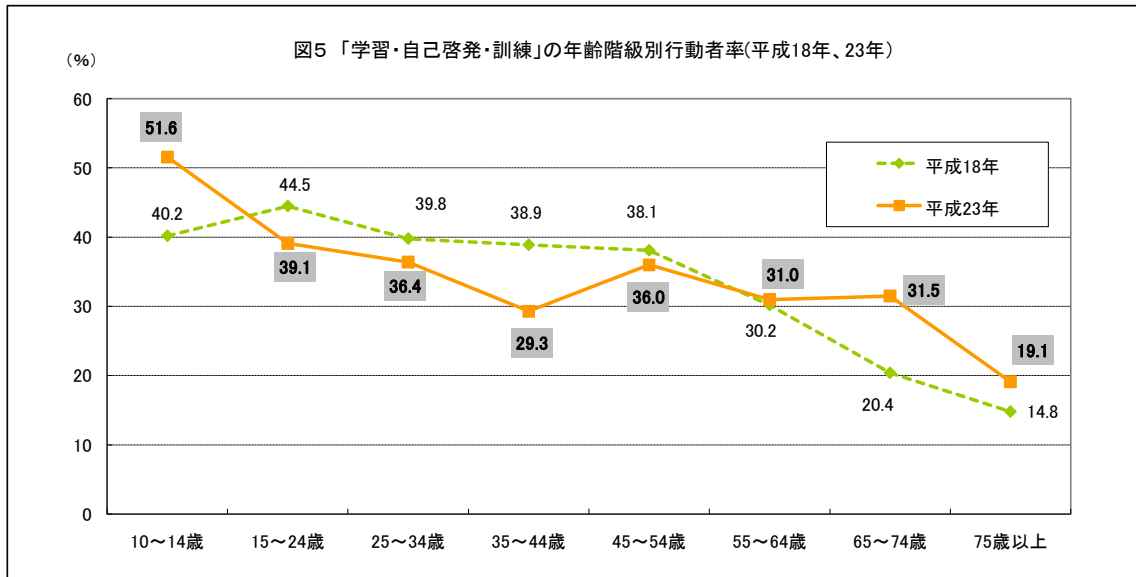
- (3) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を男女、種類別にみると、男女別の行動者率は、男性が30.7%、女性が34.3%で、女性が男性より3.6ポイント高くなっている。
 男性は「パソコンなどの情報処理」(13.7%)が最も高く、次いで「商業実務・ビジネス関係」(8.6%)となっている。女性は「家政・家事」(12.7%)が最も高く、次いで「芸術・文化」(10.1%)となっている。(図3)



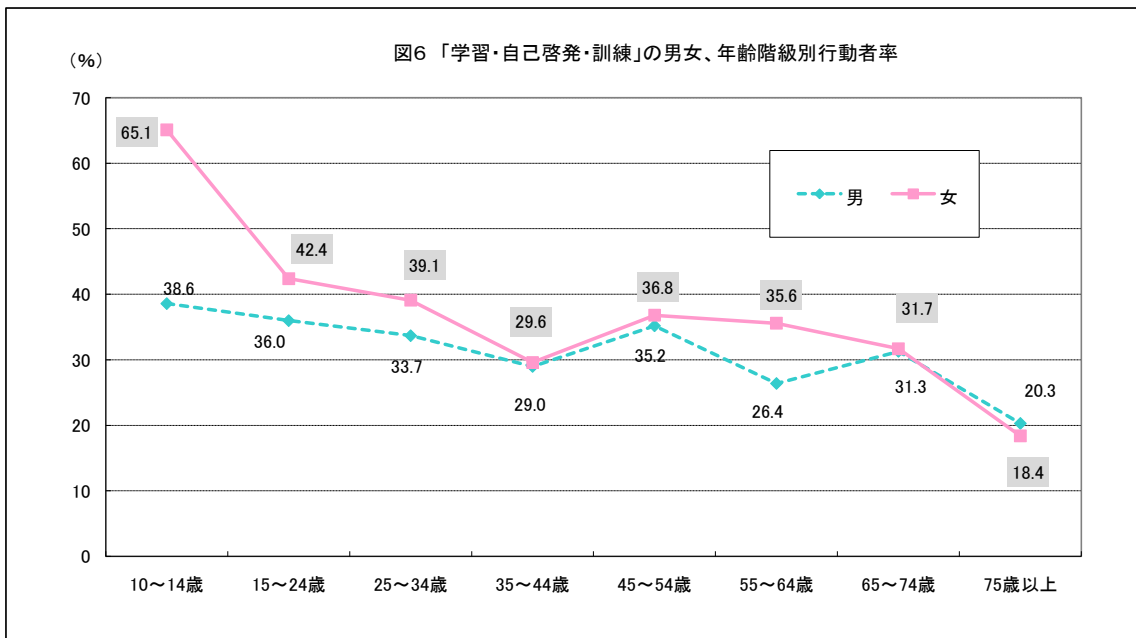
- (4) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、10～14歳代で3.6ポイント、65～74歳代で0.8ポイント、全国を上回っている。(図4)



- (5) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、10～14歳代で11.4ポイント、65～74歳代で11.1ポイント上昇している。(図5)

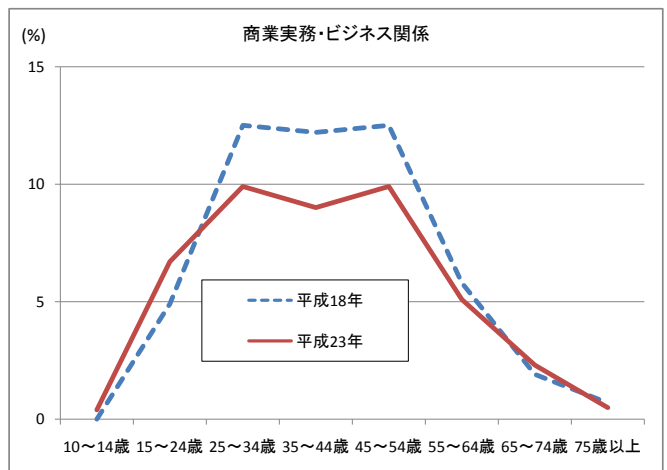
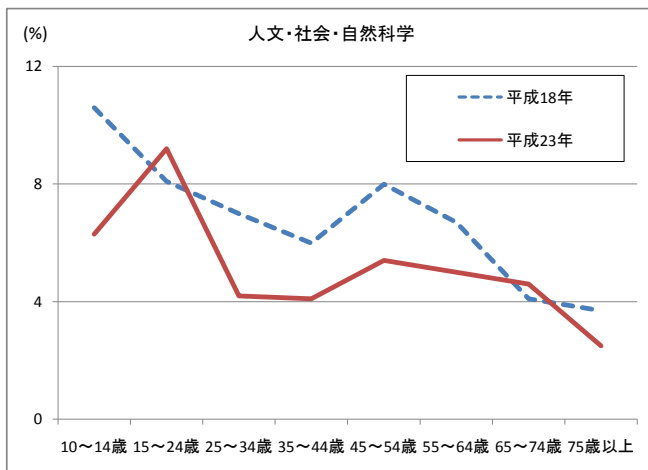
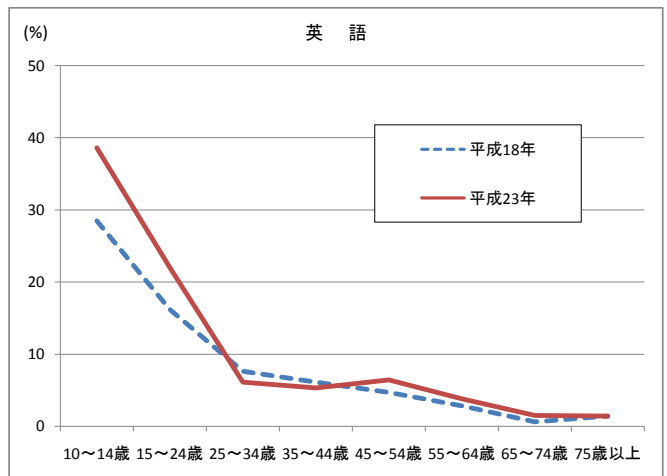
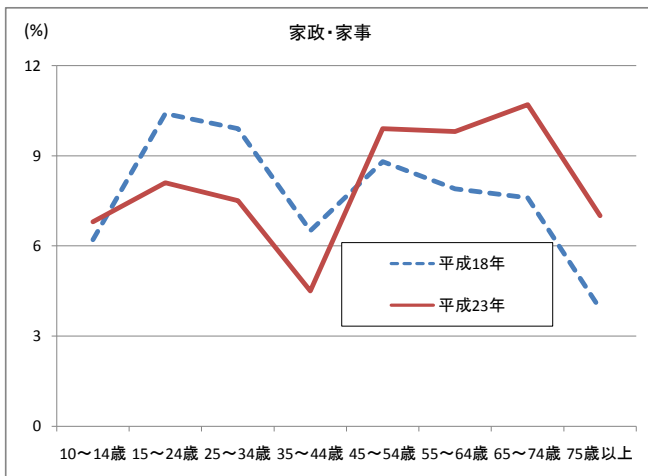
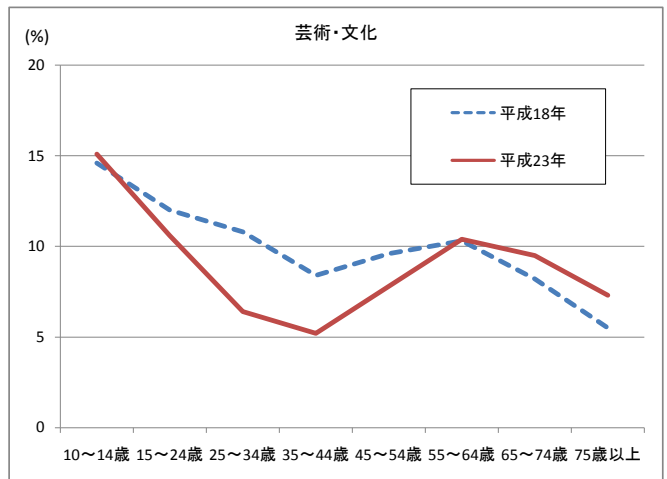
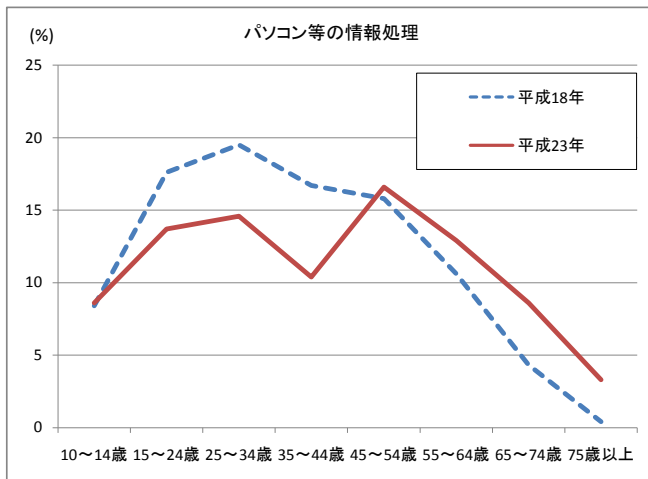


- (6) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男女とも10～14歳代が最も高いが、26.5ポイント差と女性が男性を大きく上回っている。行動者率は、75歳以上を除くすべての年齢階級で、女性が男性を上回っている。(図6)



- (7) 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「英語」は25歳未満で上昇しており、10～14歳で特に上昇している。55歳以上では、「パソコン等の情報処理」、「芸術・文化」及び「家政・家事」で上昇している。(図7)

図7 年齢階級別「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



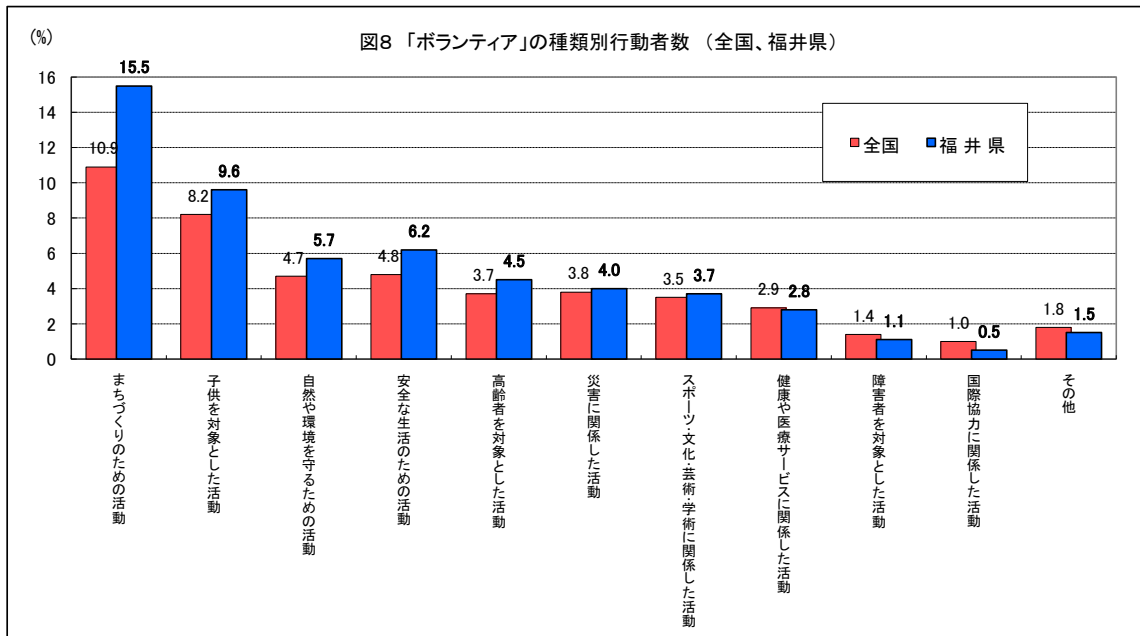
2. ボランティア活動

～ 「まちづくりのための活動」は全国12位
「子供を対象とした活動」は全国7位 ～

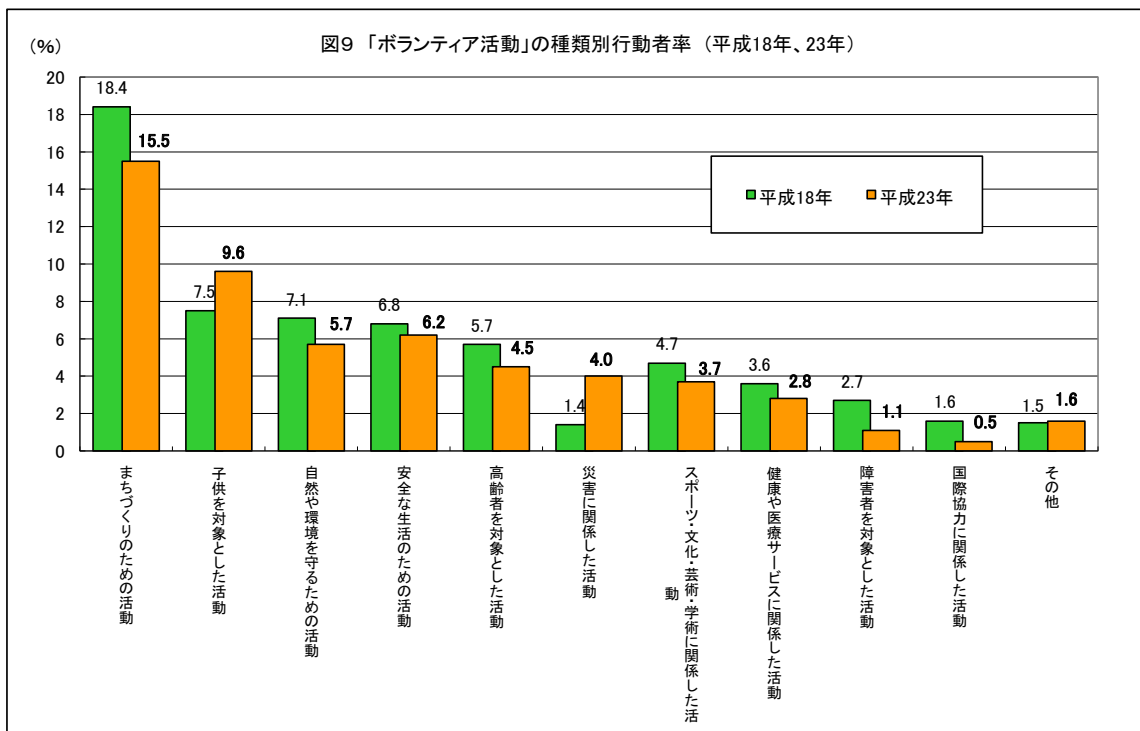
過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った県民は222千人、行動者率は31.3%(全国26.3%)で、平成18年(33.6%)より2.3ポイント低下した。

なお、行動者率の全国順位は10位で、平成18年の4位から6ランク低下した。

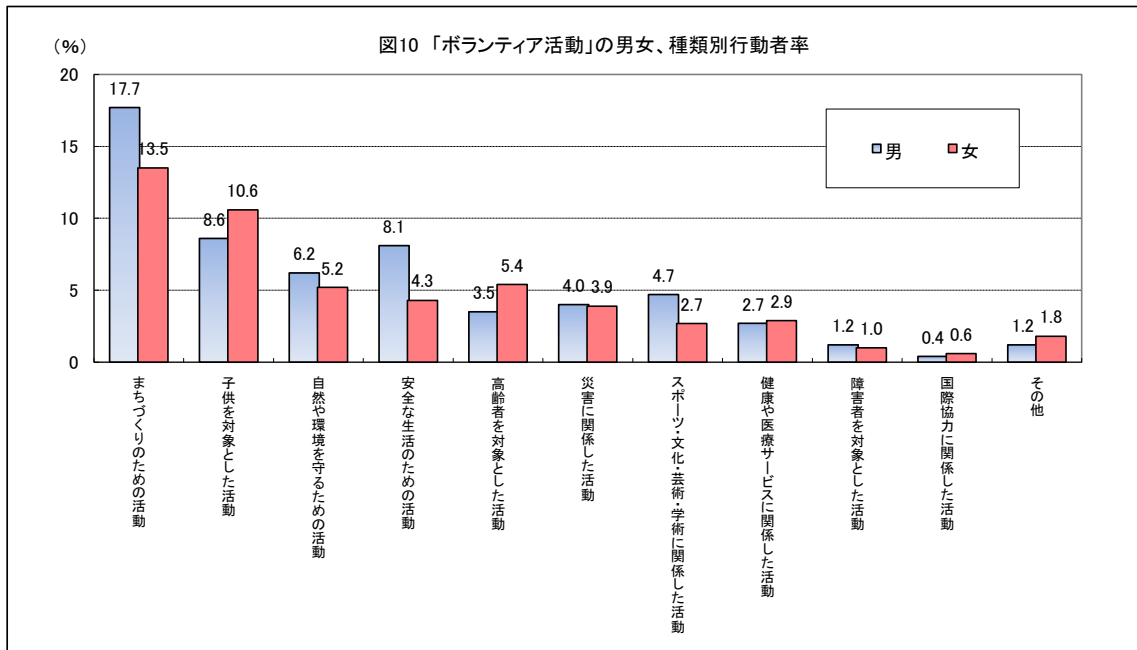
- (1) 「ボランティア活動」の行動者率を全国平均と比べると、「まちづくりのための活動」、「子供を対象とした活動」、「自然や環境を守るための活動」等で、全国を上回っている。(図8)



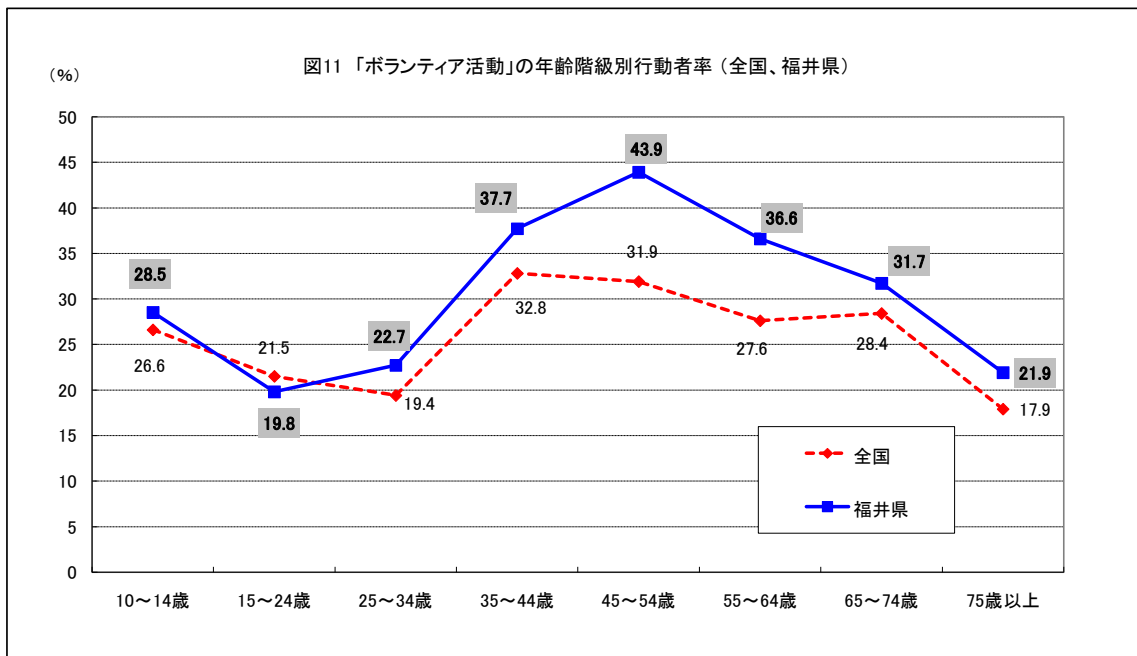
- (2) 「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が15.5%と最も高い。平成18年と比べると、行動者率は、「子供を対象とした活動」と「災害に関係した活動」で上昇している。(図9)



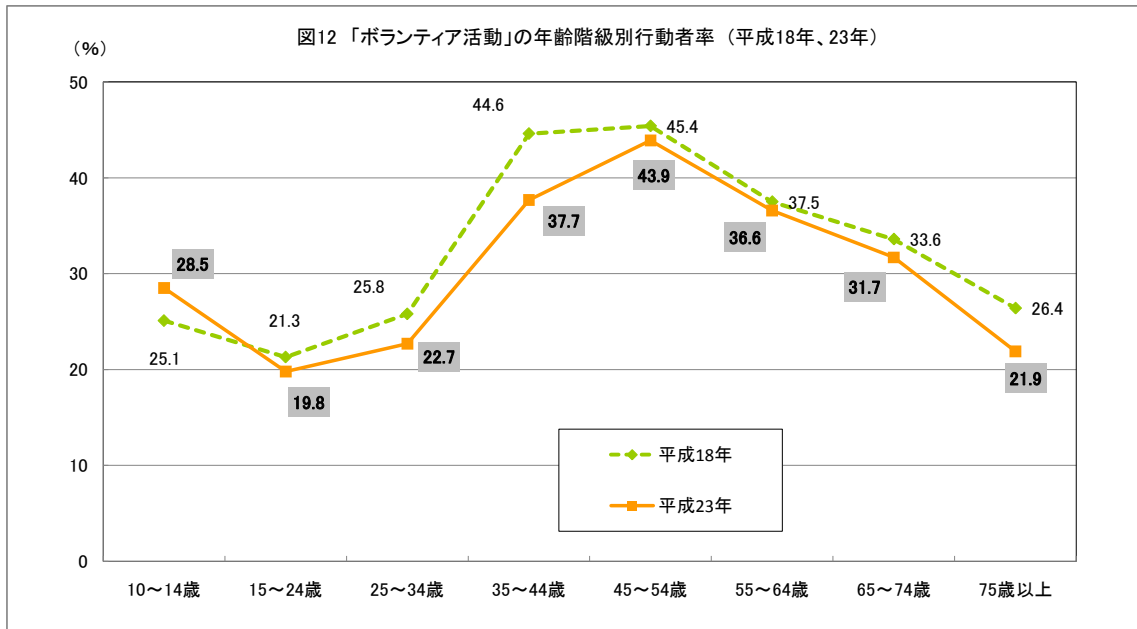
- (3) 「ボランティア活動」の行動者率を男女、種類別にみると、男女別の行動者率は、男性が32.3%、女性が30.3%で、男性が女性より2.0ポイント高くなっている。男女ともに「まちづくりのための活動」が、男性(17.7%)、女性(13.5%)で最も高く、次いで男女ともに「子供を対象とした活動」男性(8.6%)、女性(10.6%)となっている。(図10)



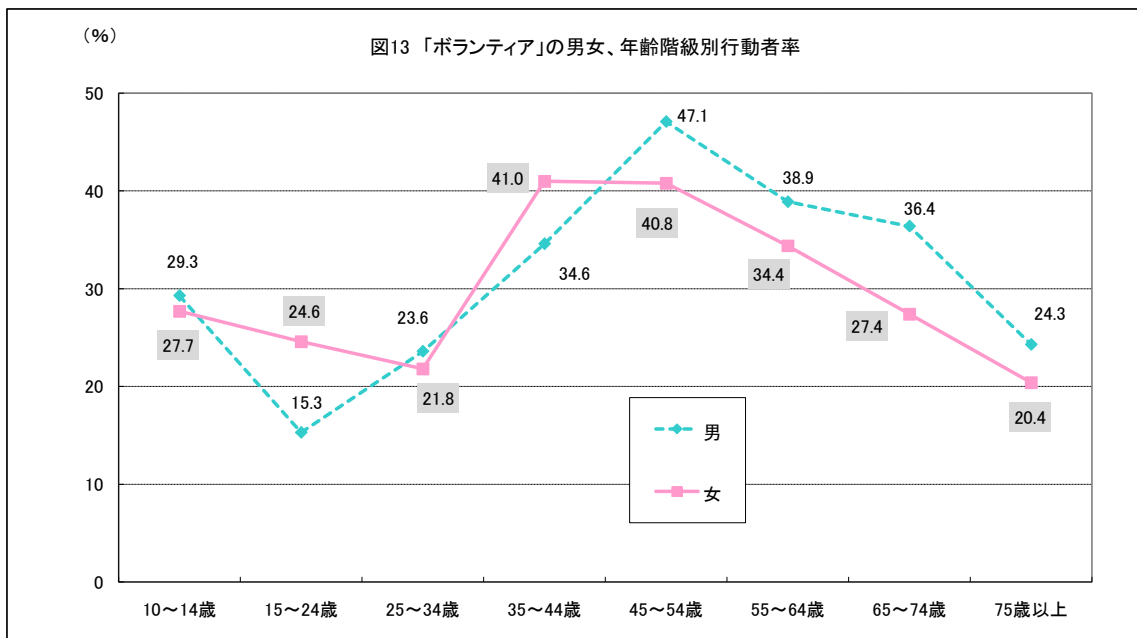
- (4) 「ボランティア活動」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、15~24歳以上を除く全ての年齢階級で上回っている。特に45~54歳で12.0ポイント差と、大きく上回っている。(図11)



- (5) 「ボランティア活動」の行動者率を年齢階級別にみると、45～54歳が43.9%と最も高く、15～24歳が19.8%と最も低い。
 平成18年と比べると、行動者率は10～14歳を除き全体的に低下しており、特に35～44歳で低下している。
 (図12)

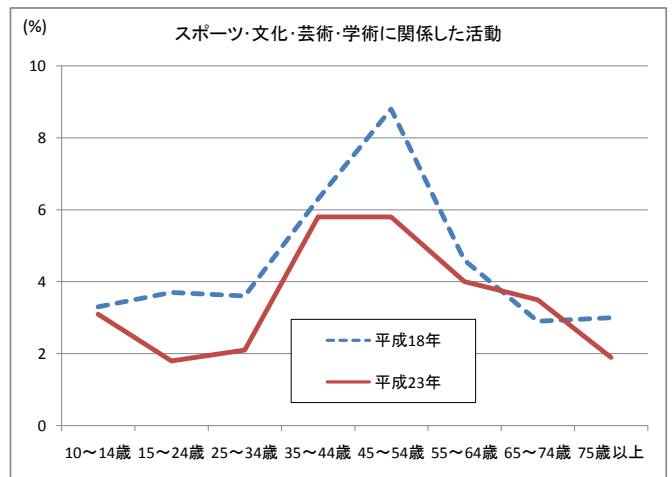
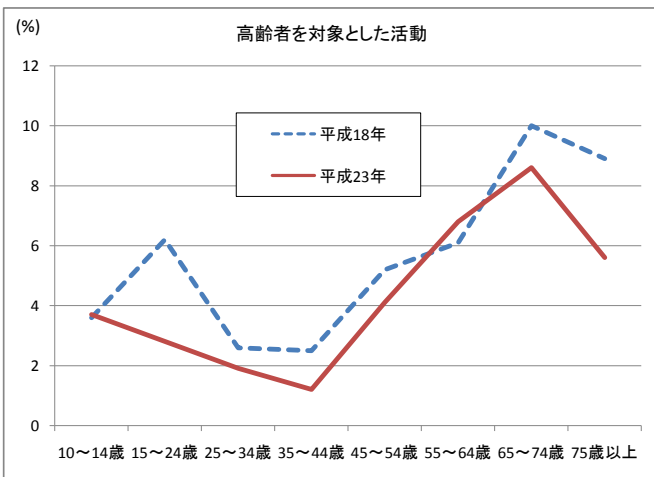
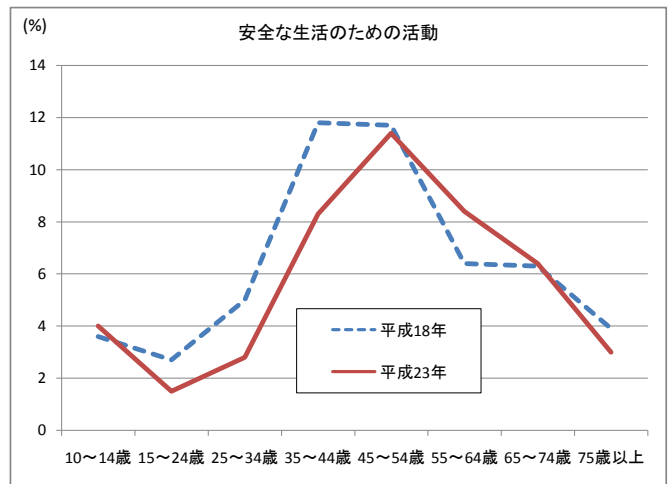
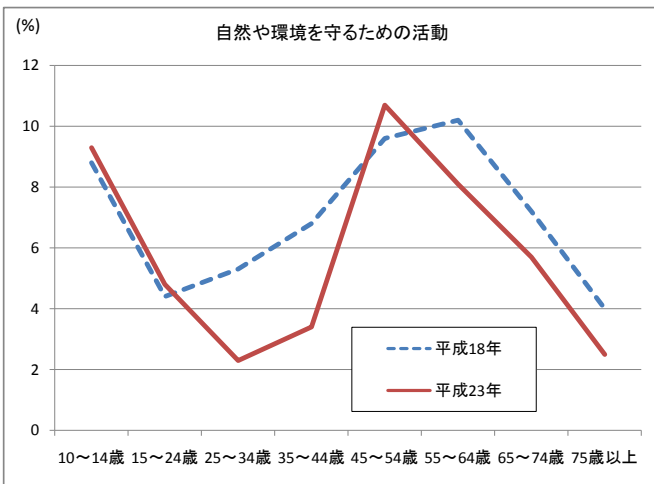
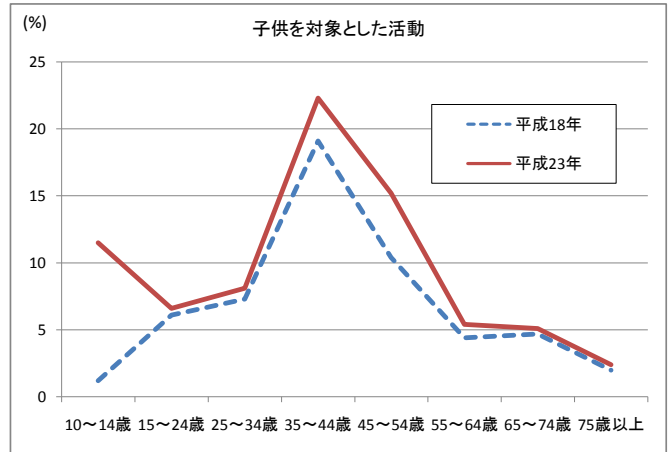
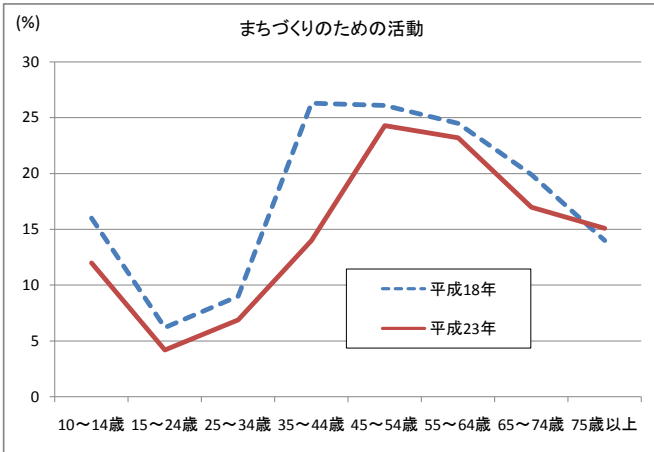


- (6) 「ボランティア活動」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男性は45～54歳（47.1%）、女性は35～41歳（41.0%）で最も高い。行動者率は、15～24歳と35～44歳以外で男性が女性を上回っている。（図13）



- (7) 「ボランティア活動」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「まちづくりのための活動」は、75歳以上を除く全ての階級で低下しており、特に35～44歳で低下している。
「子供を対象とした活動」は、全ての年齢階級で上昇しており、10～14歳で特に上昇している。(図14)

図14 年齢階級別「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



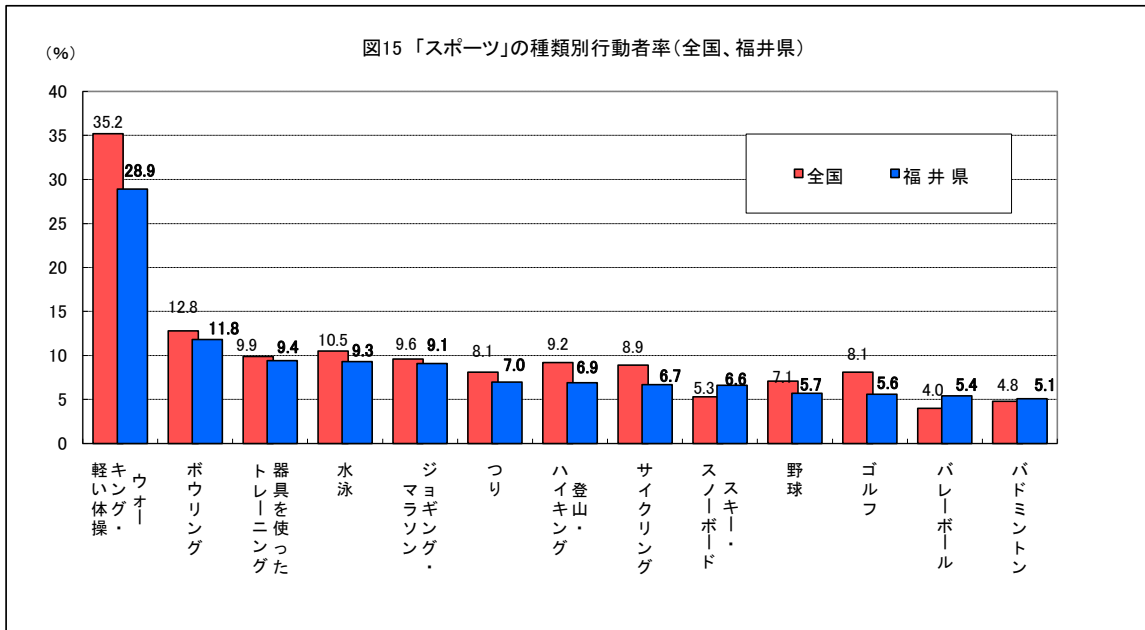
3. スポーツ

～ 男女ともに最も多い「ウォーキング・軽い体操」～

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った県民は407千人、行動者率は57.4%(全国63.0%)で、平成18年(63.0%)より5.6ポイント低下した。

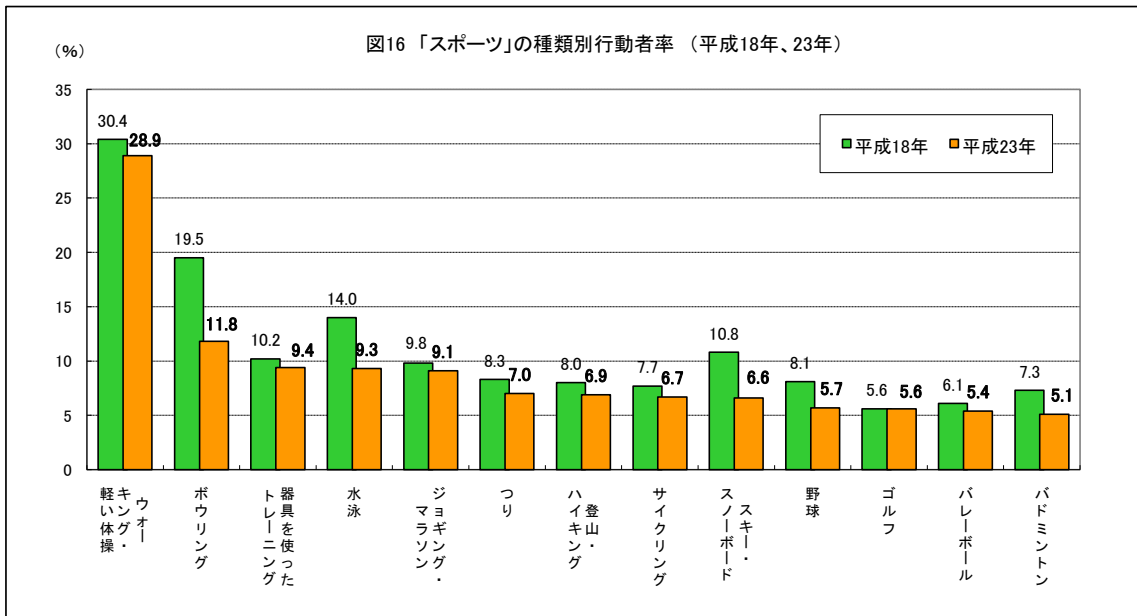
なお、行動者率の全国順位は39位で、平成18年の30位から9ランク低下した。

- (1) 「スポーツ」の行動者率を主な種類別で全国平均と比べると、「ウォーキング・軽い体操」が28.9%(全国35.2%)で最も高く、次いで「ボウリング」が11.8%(全国12.8%)となっている。行動者率は、スキー・スノーボード、パレーボール、バドミントンを除き、全国を下回っている。(図15)

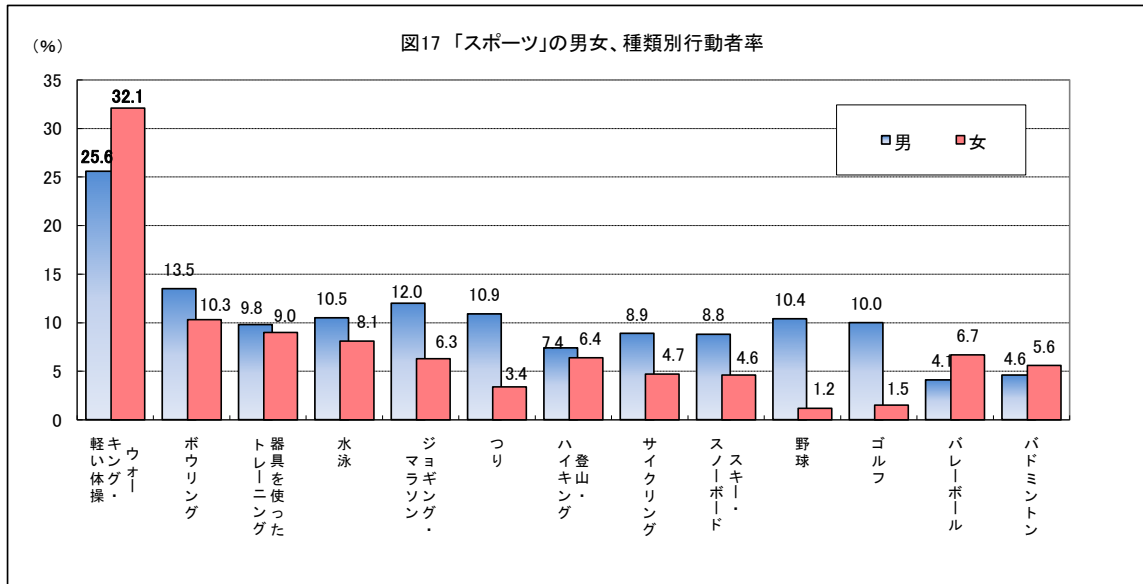


※行動者率が総数で5%以上の種類を掲載

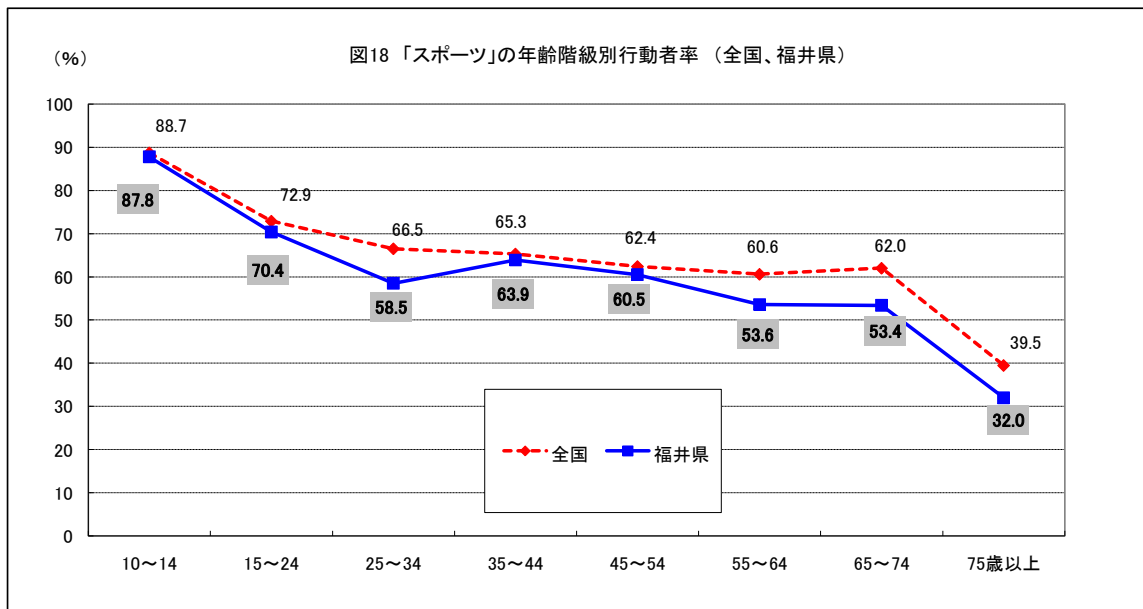
- (2) 「スポーツ」の行動者率を主な種類別に平成18年と比べると、平成18年、23年とも「ウォーキング・軽い運動」が最も高い。行動者率は、ボウリングで7.7ポイント低下したほか、ゴルフ以外の全ての種類で低下している。(図16)



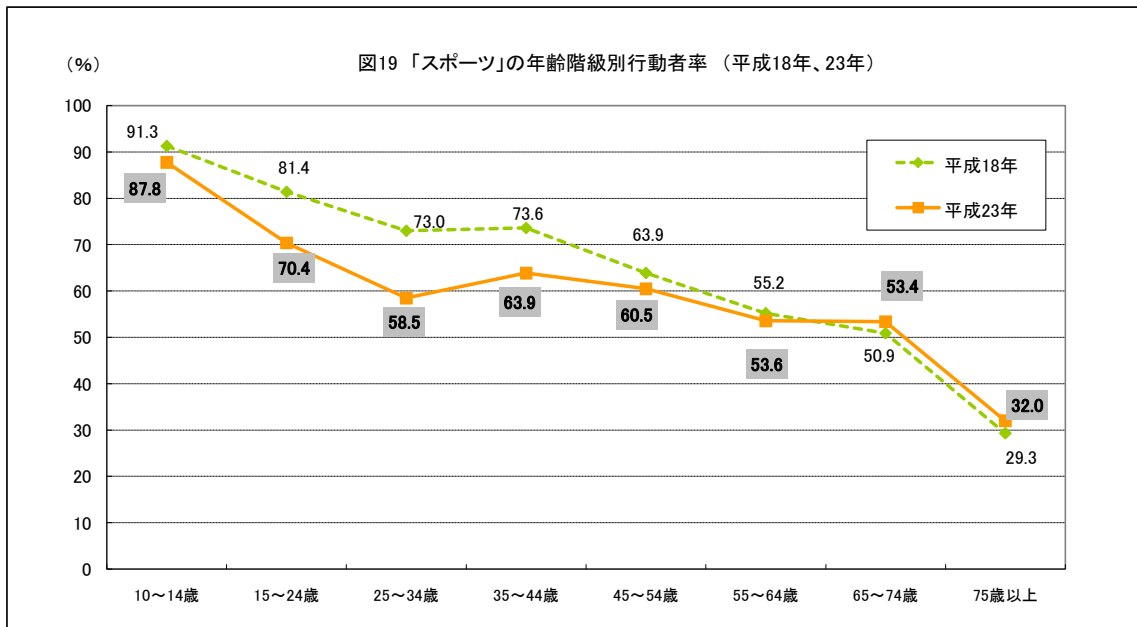
- (3) 「スポーツ」の行動者率を男女、種類別にみると、男女別の行動者率は、男性が63.0%、女性が52.0%で、男性が女性より11.0ポイント高くなっている。男女ともに「ウォーキング・軽い体操」が、男性（25.6%）、女性（32.1%）で最も高く、次いで「ボウリング」が、男性（13.5%）、女性（10.3%）となっている。（図17）



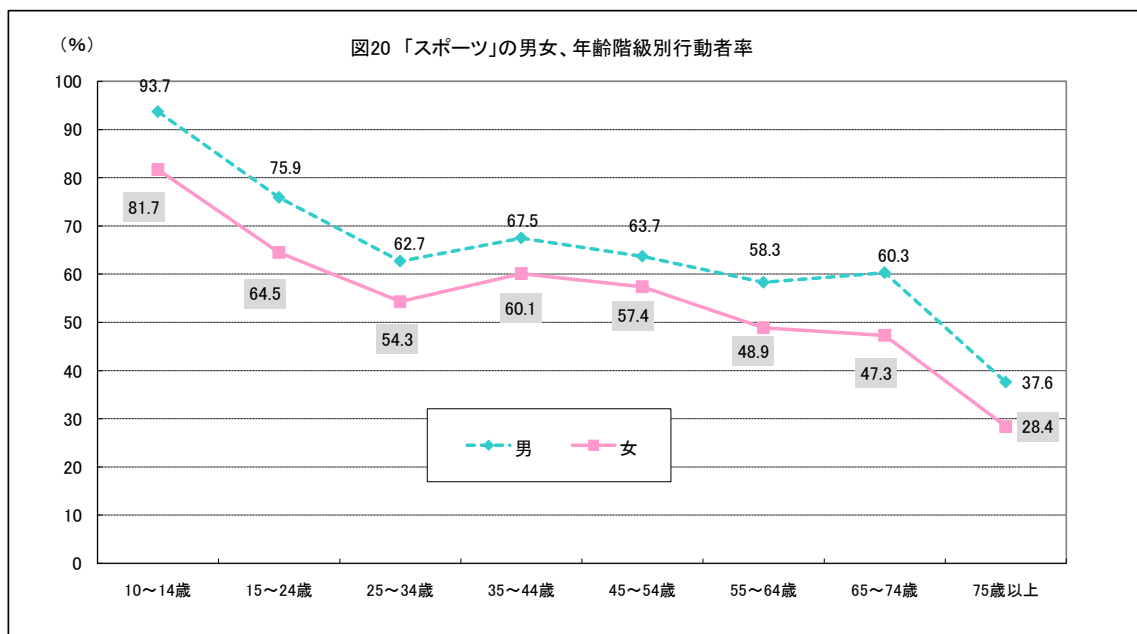
- (4) 「スポーツ」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、行動者率は、全ての年齢階級で下回っている。65～74歳で8.6ポイント差と、特に下回っている。（図18）



- (5) 「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳代が87.8%と最も高くなっている。平成18年と比べると、10～64歳までの年齢層で低下しており、25～34歳代で14.5ポイント 差と特に低下している。(図19)

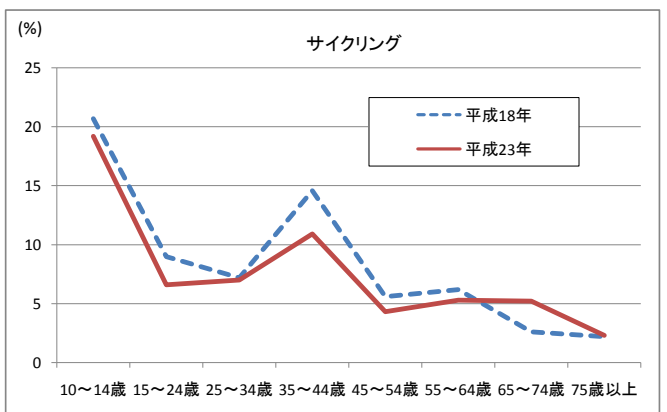
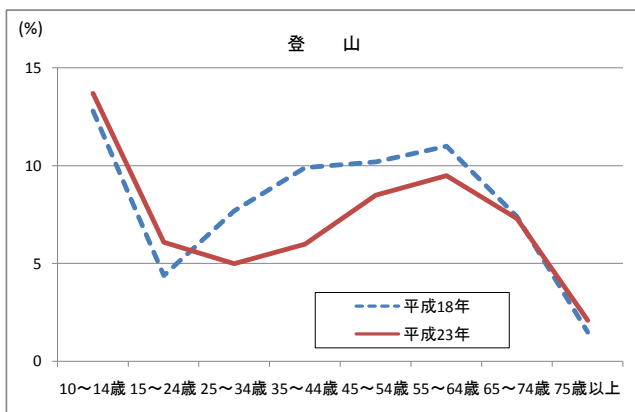
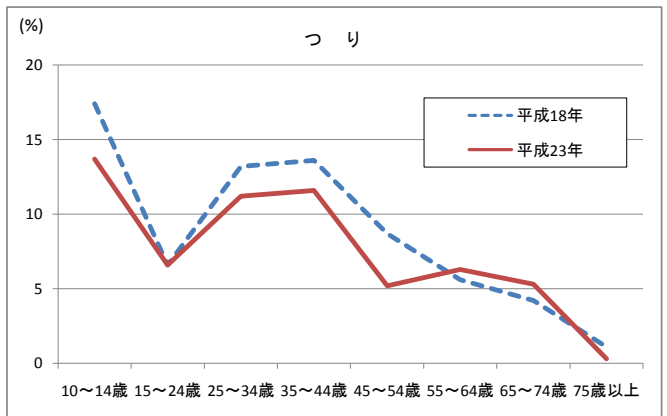
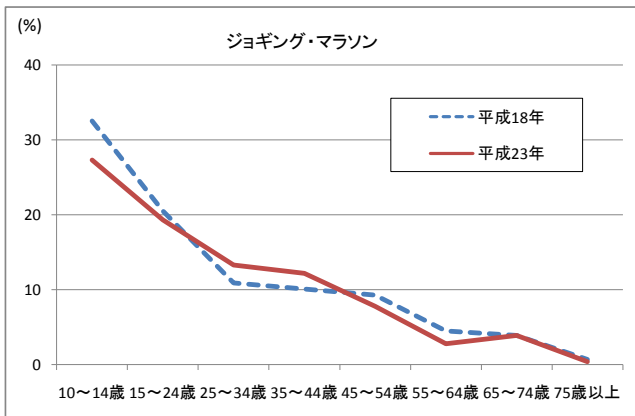
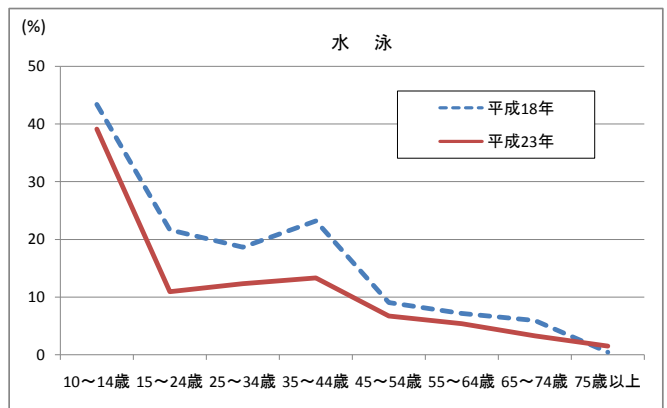
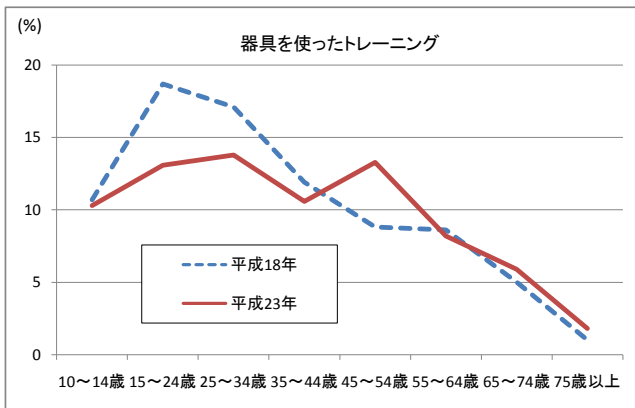
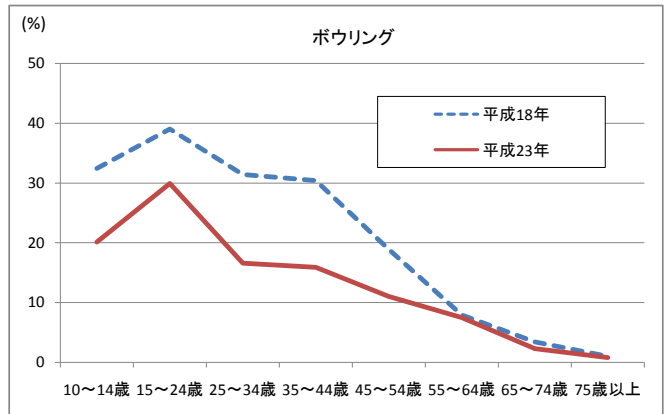
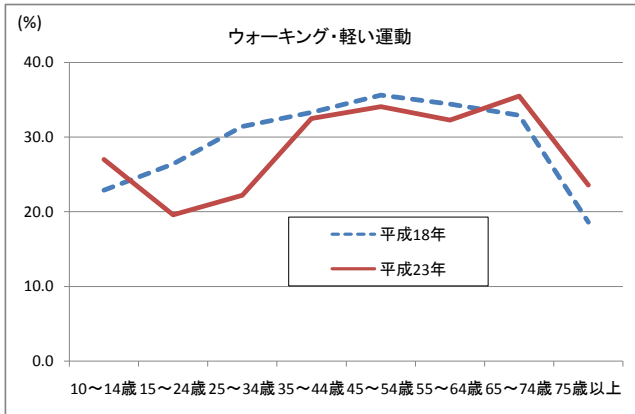


- (6) 「スポーツ」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男女とも10～14歳が最も高い。行動者率は、全ての年齢階級で、男性が女性を上回っている。(図20)



(7) 「スポーツ」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「器具を使ったトレーニング」は45～54歳で特に上昇している。また、「ボウリング」は25～44歳で特に低下している。(図21)

図21「スポーツ」の主な種類の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



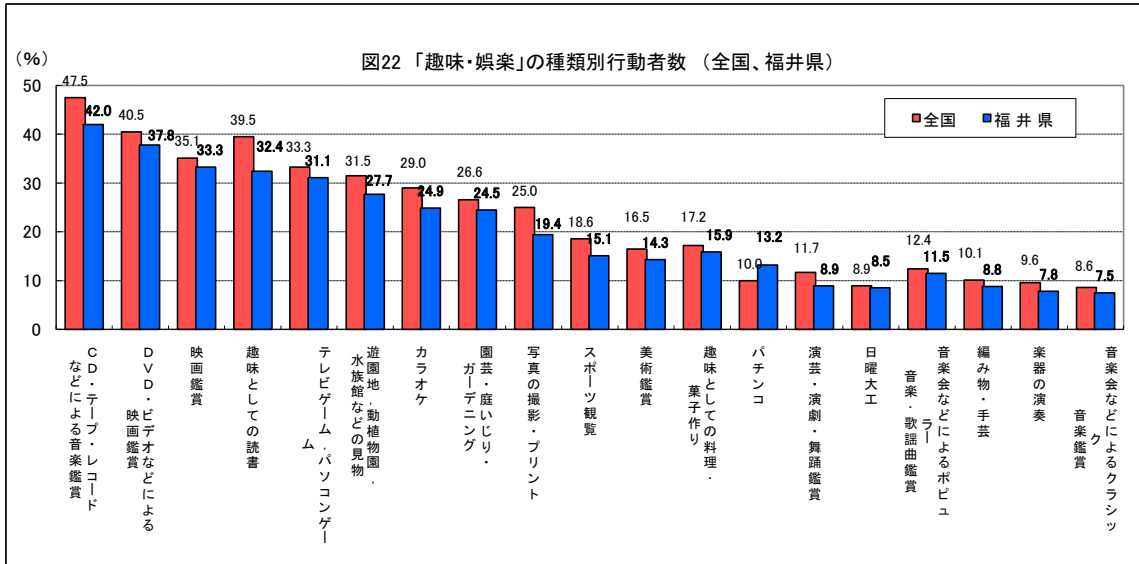
4. 趣味・娯楽

～ 10代前半は「テレビゲーム・パソコンゲーム」、
 15～54歳は「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」、
 55歳以上は「園芸・庭いじり・ガーデニング」～

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った県民は582千人、行動者率は82.0%(全国84.8%)で、平成18年の84.3%より2.3ポイント低下した。

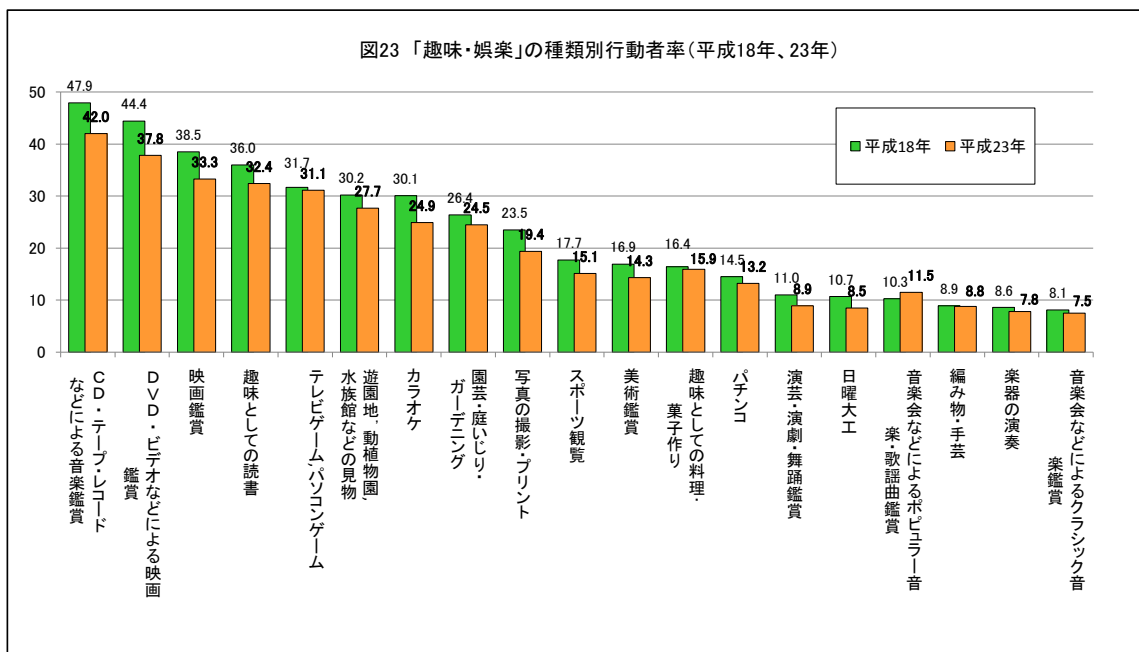
なお、行動者率は全国29位で、平成18年の16位から13ランク低下した。

- (1) 「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類別で全国と比べると、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」が42.0%(全国47.5%)で最も高く、次いで「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」が37.8%(全国40.5%)となっている。行動者率は、ほとんどの種類で全国を下回っている。(図22)

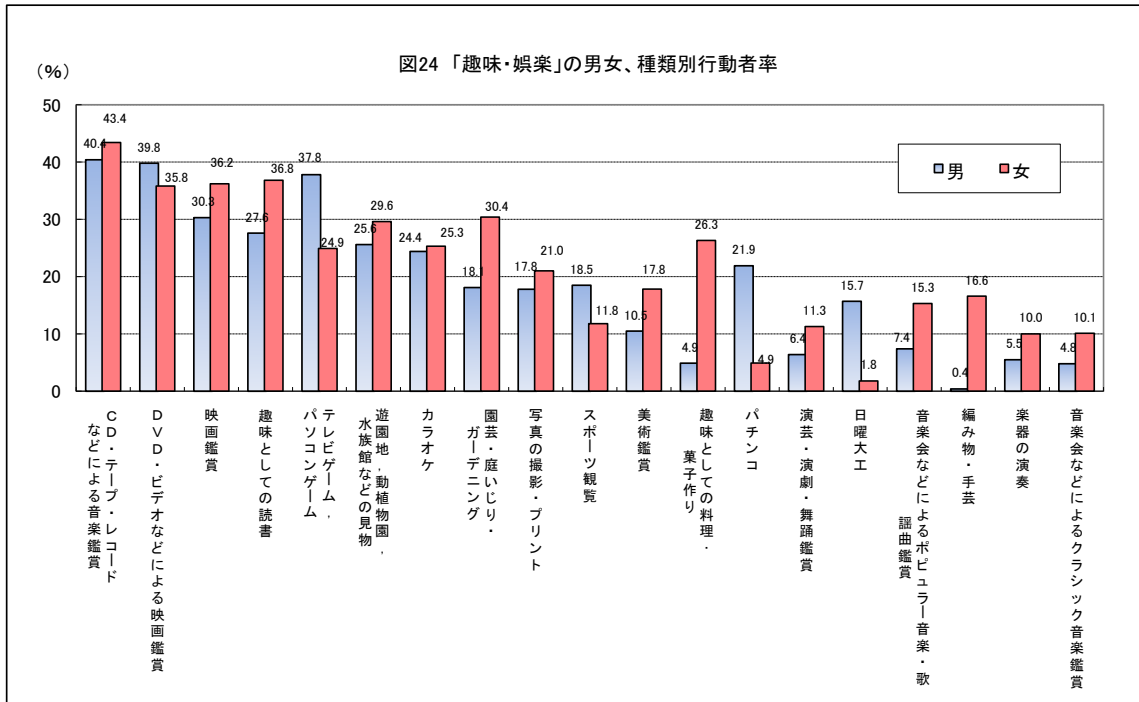


※行動者率が総数で7%以上の種類を掲載

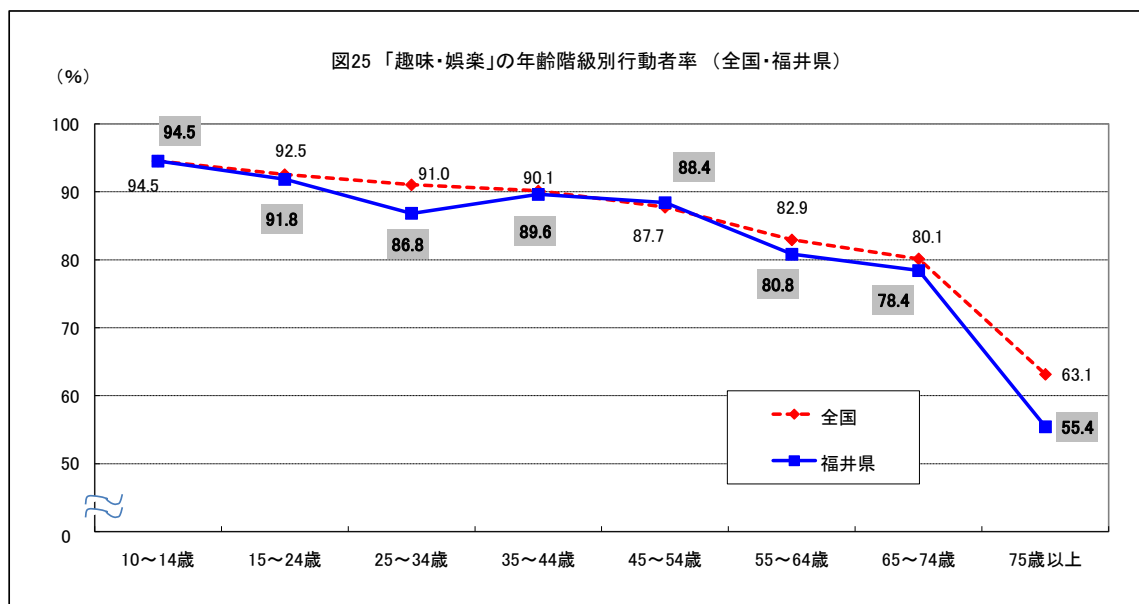
- (2) 「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類別に平成18年と比べると、「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」が5.9ポイント、「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」が6.6ポイントそれぞれ低下しているほか、ほとんどの種類で低下している。(図23)



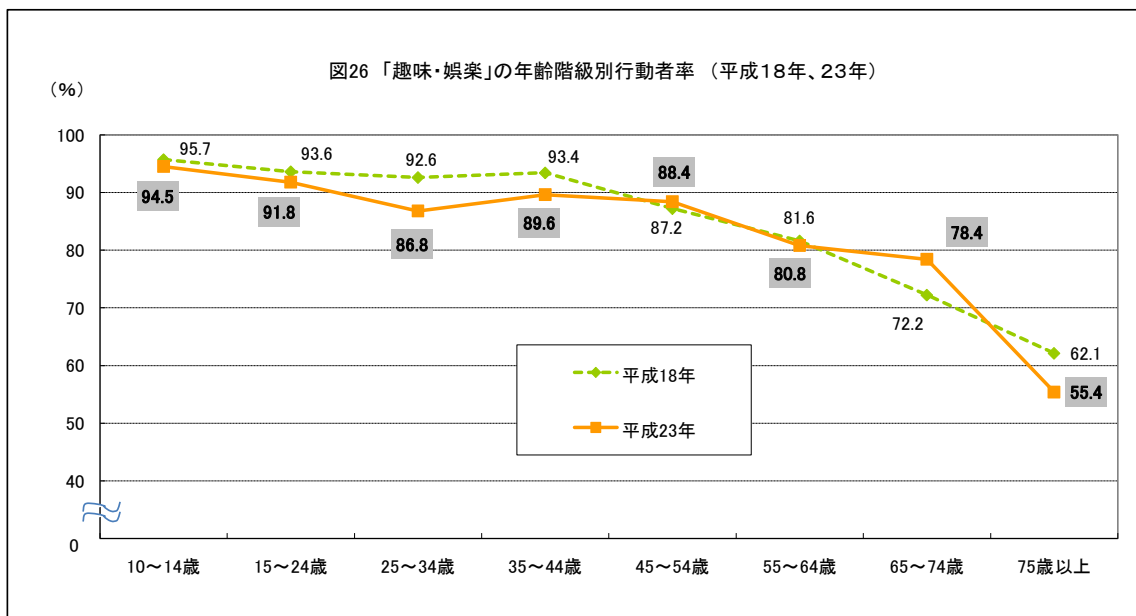
- (3) 「趣味・娯楽」の行動者率を男女・種類別にみると、男女別の行動者率は、男性が83.1%、女性が81.1%で、男性が女性より2.0ポイント高くなっている。
男女共に「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」（男性40.4%、女性43.4%）が最も高く、次に男性が「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」（39.8%）、女性が「趣味としての読書」（36.8%）となっている。（図24）



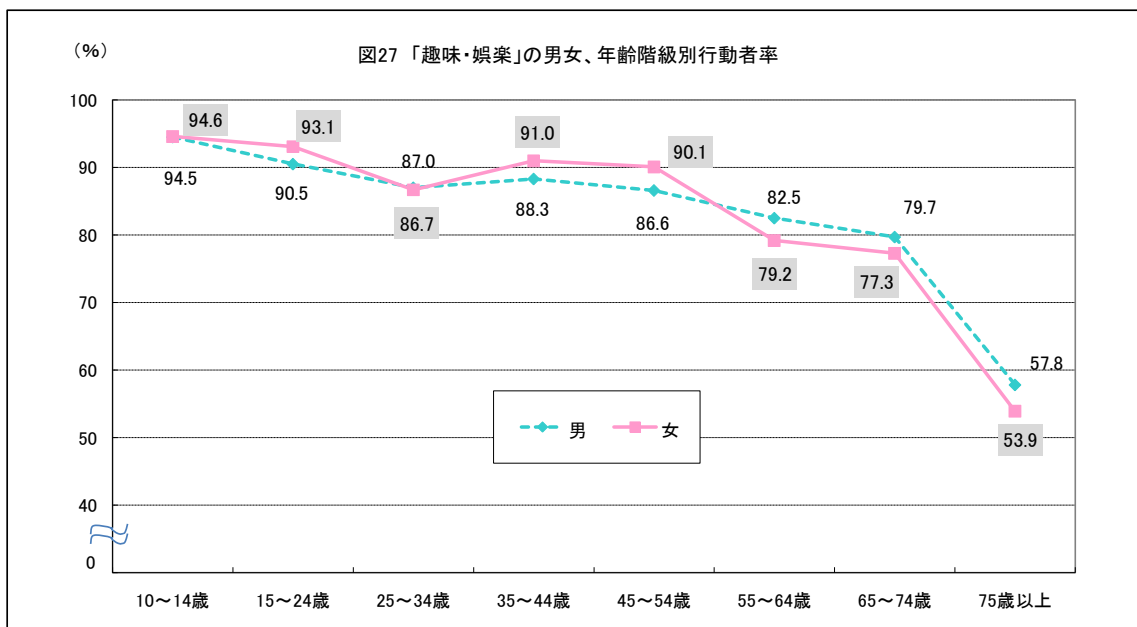
- (4) 「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、行動者率は、45～54歳以外の全ての年齢階級で下回っている。75歳以上で7.7ポイント差と、特に下回っている。（図25）



- (5) 「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、行動者率は、45～54歳と65～74歳で上回っている。(図26)

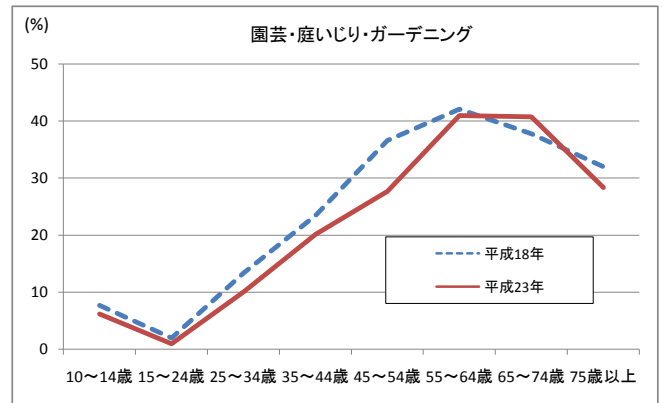
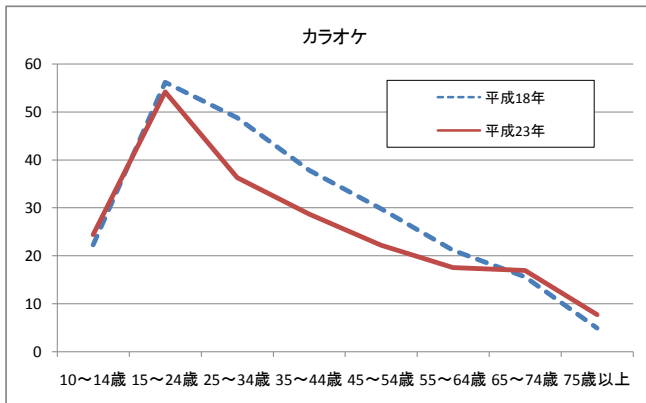
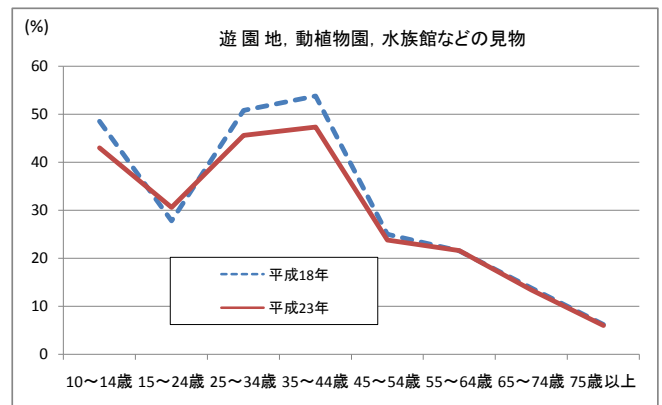
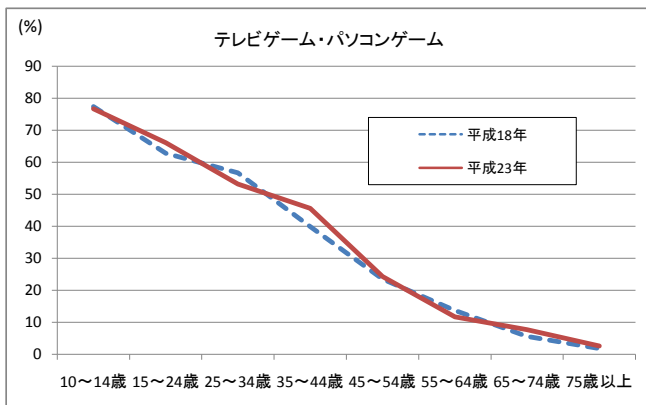
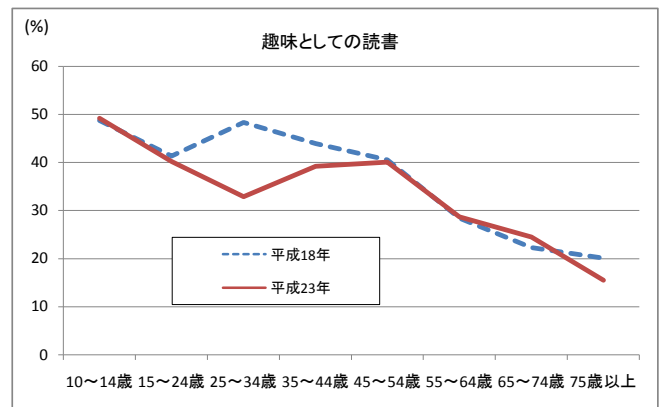
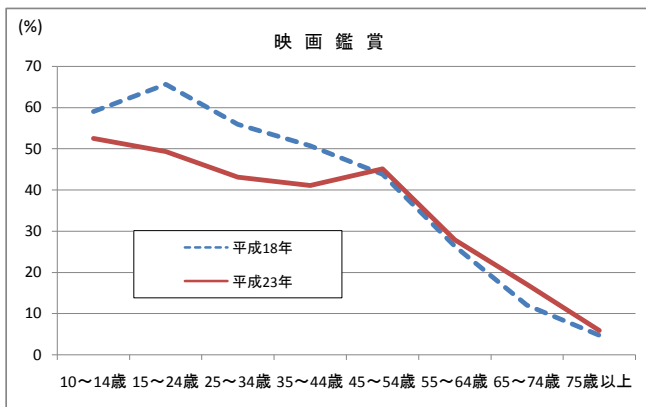
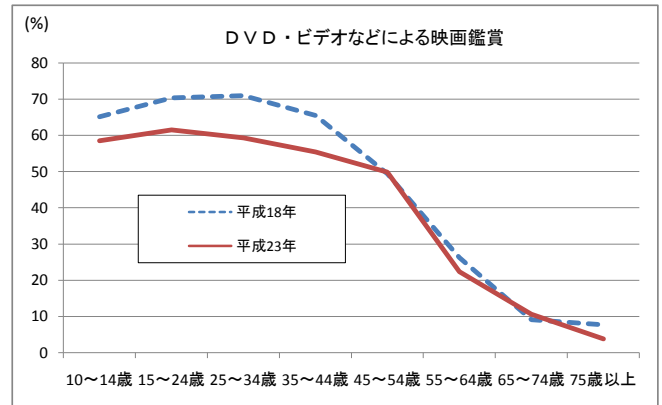
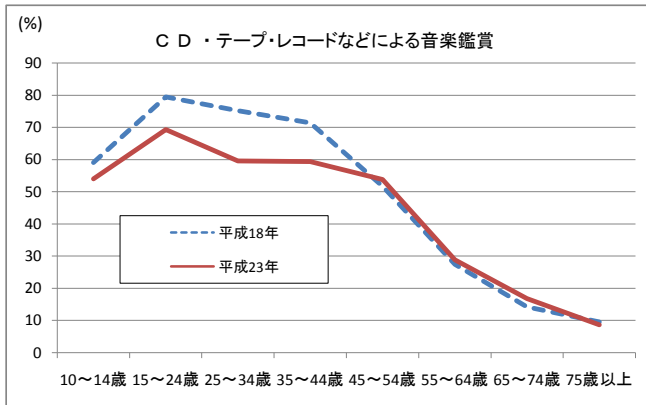


- (6) 「趣味・娯楽」の行動者率を男女、年齢階級別に比べると、行動者率は、男女とも10～14歳で最も高い。(図27)



- (7) 「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「映画鑑賞」は、45歳以上で上昇、10～44歳で低下している。15～24歳で16.3ポイント差と特に低下している。(図28)

図28「趣味・娯楽」の主な種類の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

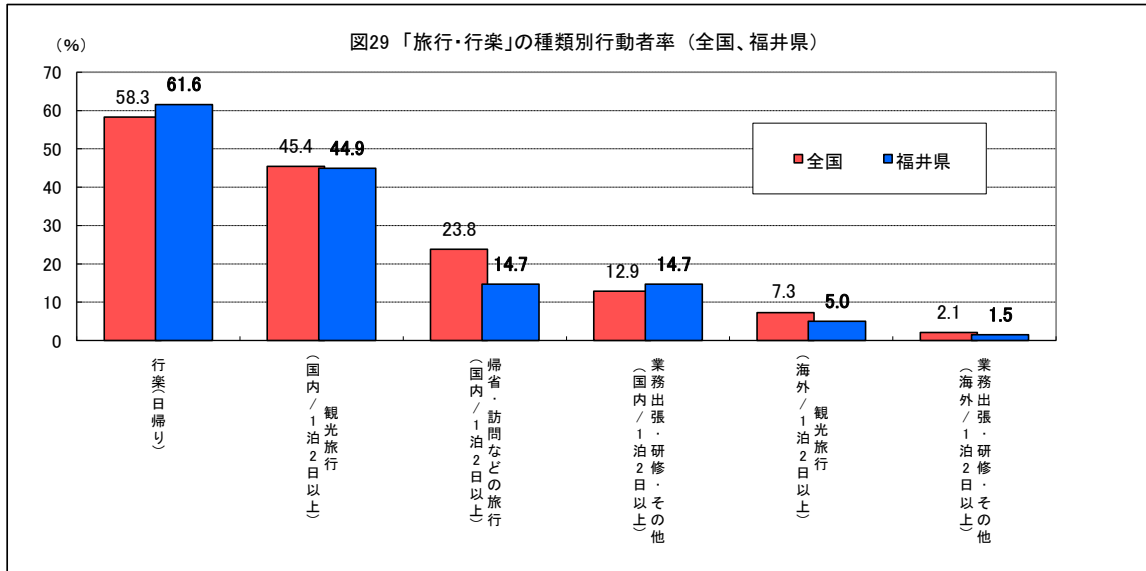


5. 旅行・行楽

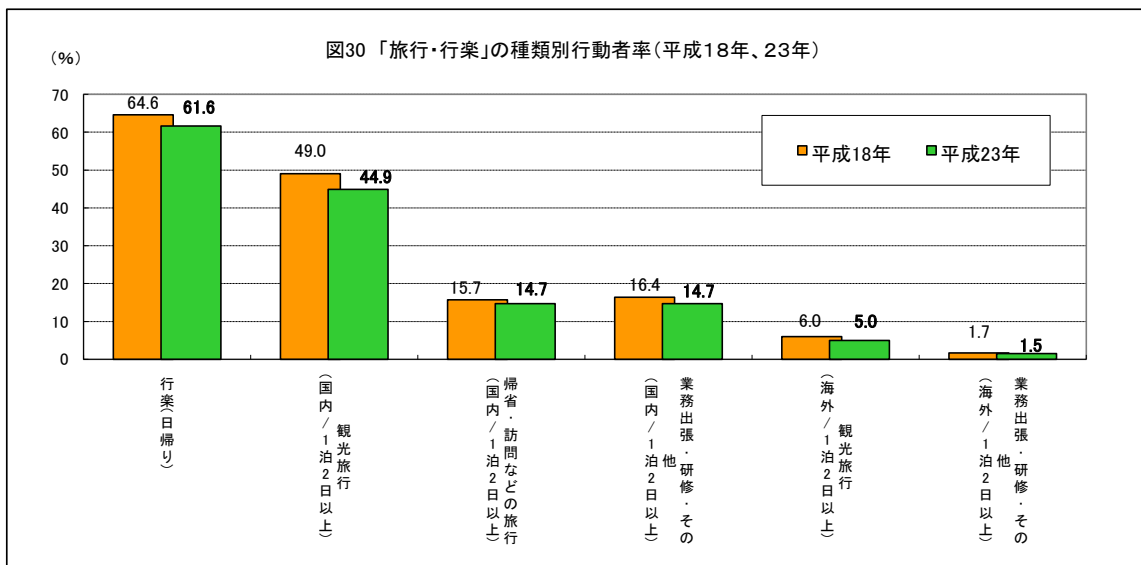
～ 6割以上の人が日帰りの「行楽」～

過去1年間に「旅行・行楽」を行った県民は528千人、行動者率は、74.5%(全国73.2%)で、平成18年(78.1%)より3.6ポイント低下している。
 なお、行動者率は全国12位で、平成18年の9位から3ランク低下した。

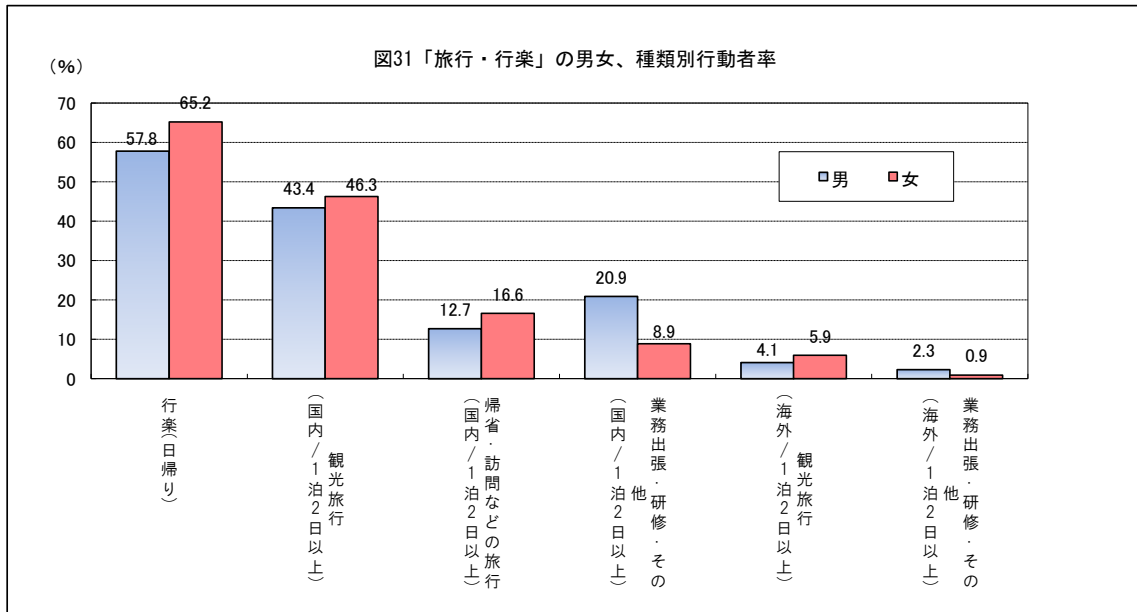
- (1) 「旅行・行楽」の行動者率を種類別に全国と比べると、「行楽(日帰り)」が61.6%(全国58.3%)で最も高く、次いで観光旅行(国内/1泊2日以上)が44.9%(全国45.4%)となっている。
 行動者率は、行楽(日帰り)と、業務出張・研修・その他(国内/1泊2日以上)で、全国を上回っている。(図29)



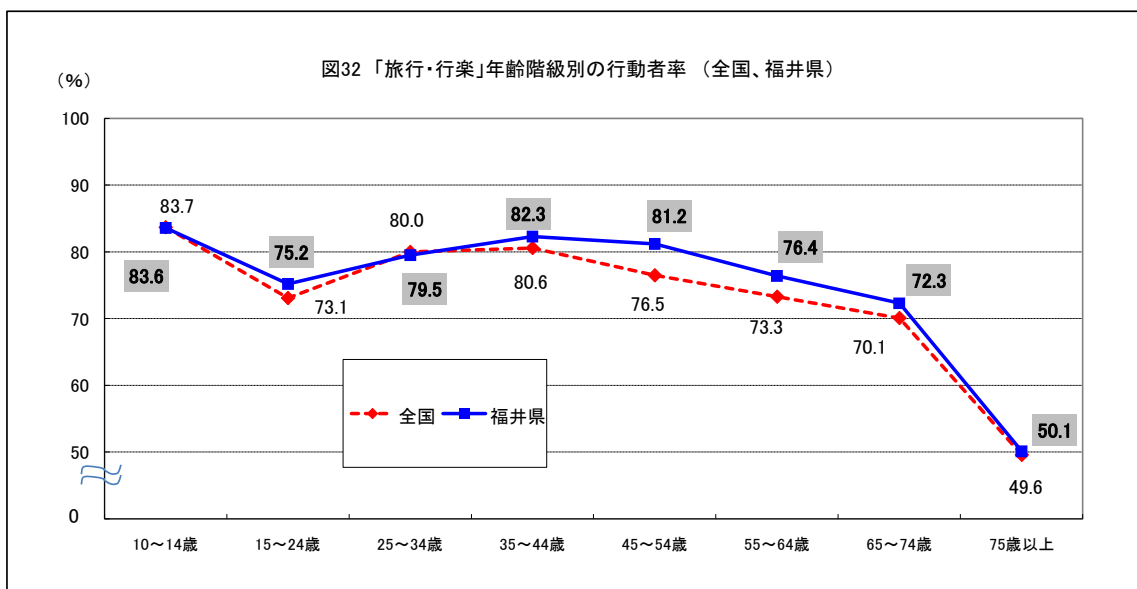
- (2) 「旅行・行楽」の行動者率を種類別に平成18年と比べると、「行楽(日帰り)」で3.0ポイント、「観光旅行(国内/1泊2日以上)」で4.1ポイント低下しているほか、全ての種類で下回っている。(図30)



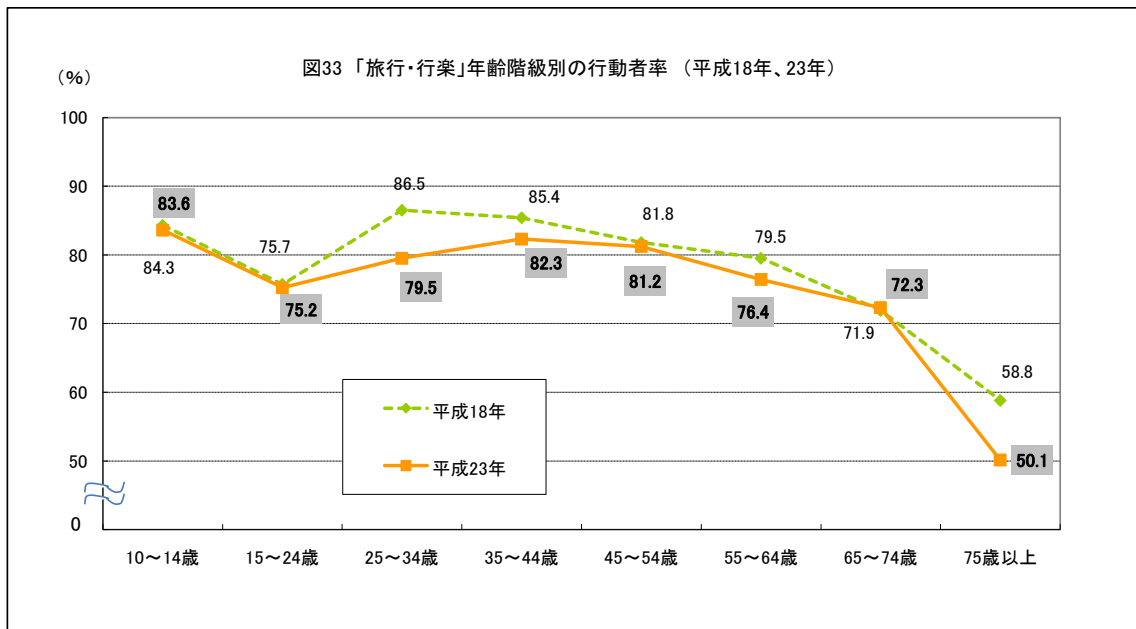
- (3) 「旅行・行楽」の行動者率を男女、種類別にみると、男女別の行動者率は、男性が73.0%、女性が75.9%で、女性が男性より2.9ポイント高くなっている。
 行動者率は、行楽(日帰り)で、男(57.8%)、女(65.2%)で女性が男性より7.4ポイント上回っているほか、観光旅行(国内/1泊2日以上)、帰省・訪問などの旅行(国内/1泊2日以上)、観光旅行(海外/1泊2日以上)、業務出張・研修・その他(国内/1泊2日以上)、業務出張・研修・その他(海外/1泊2日以上)で、女性が男性を上回っている。(図31)



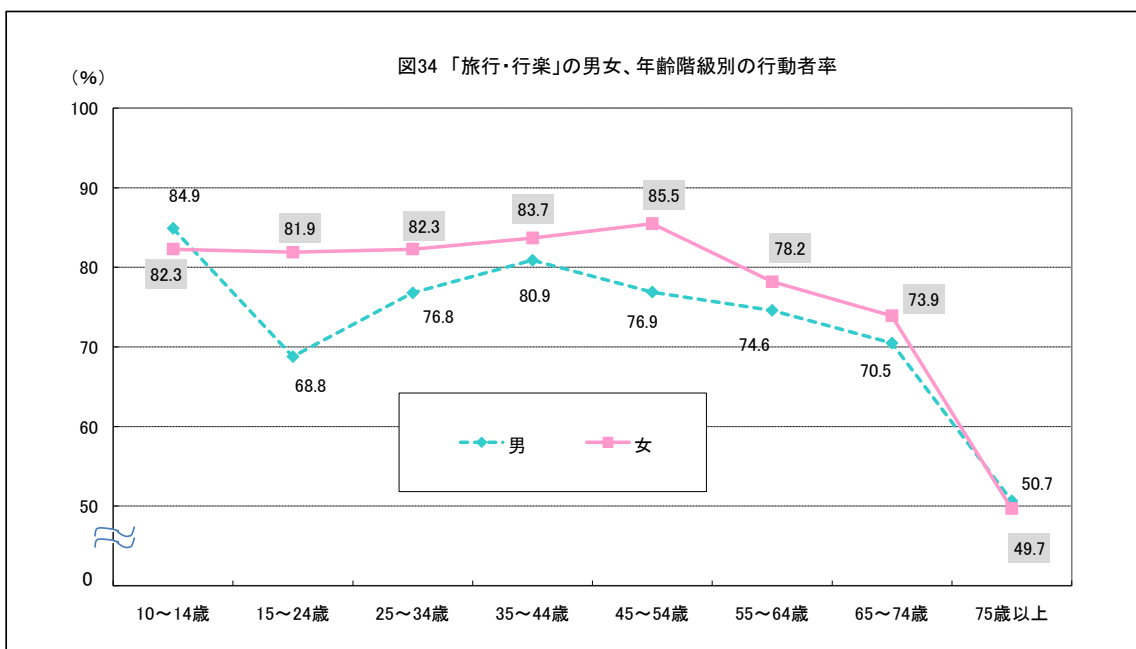
- (4) 「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別に全国と比べると、行動者率は、10~14歳と25~34歳以外の年齢階級で上回っている。45~54歳で4.7ポイント差と、特に上回っている。(図32)



- (5) 「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、行動者率は、10～14歳と65～74歳以外の年齢階級で低下している。25～34歳で7.0ポイント差と、特に下回っている。(図33)

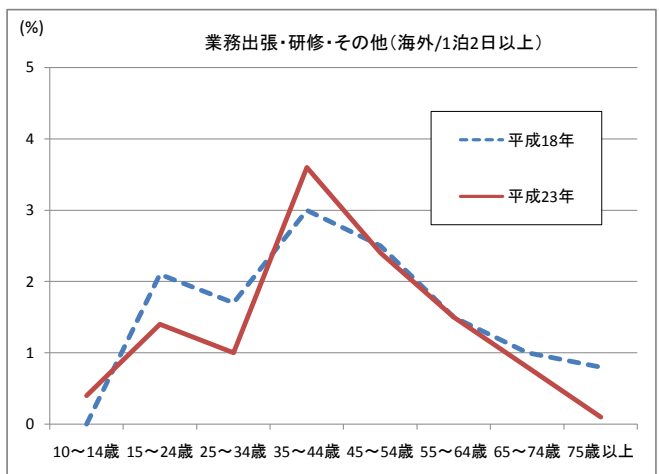
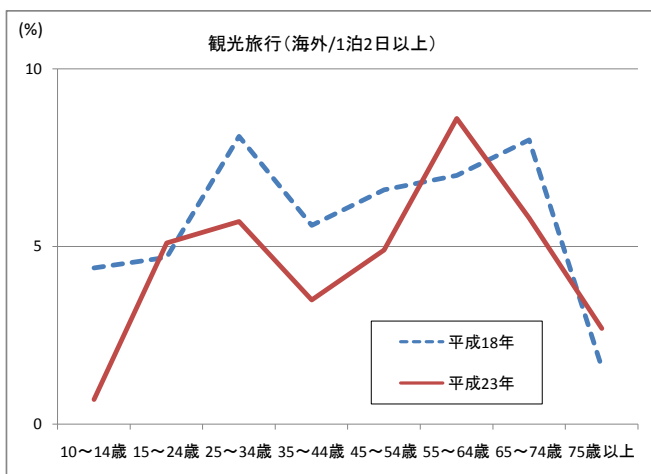
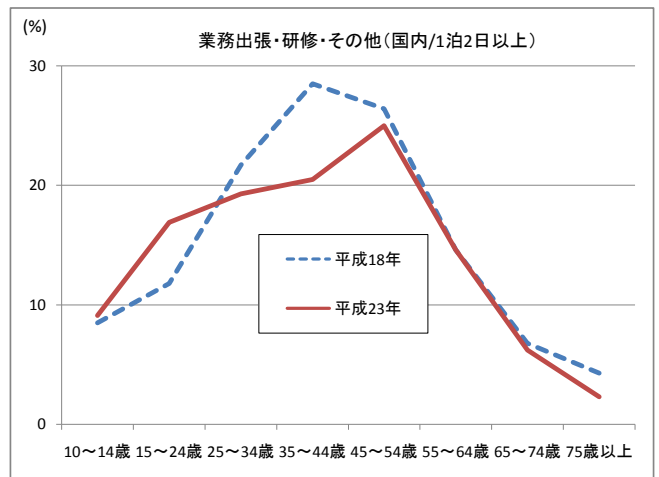
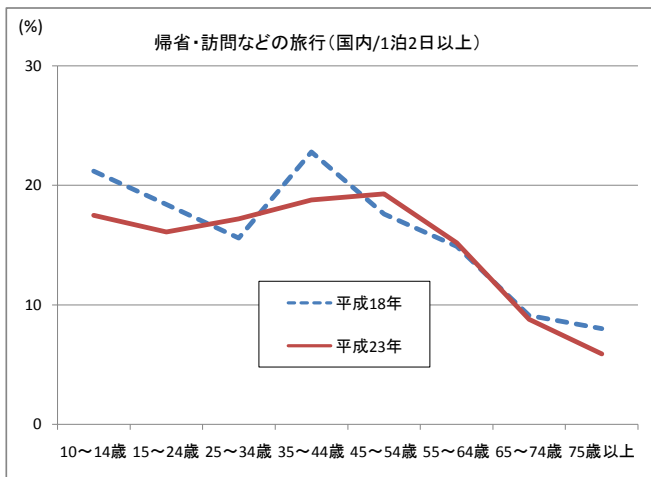
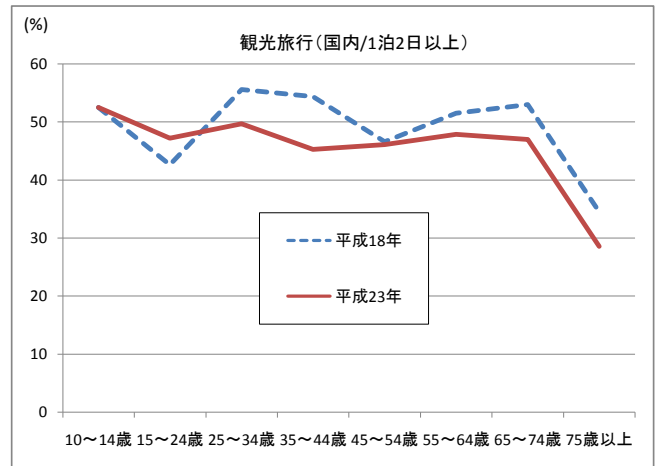
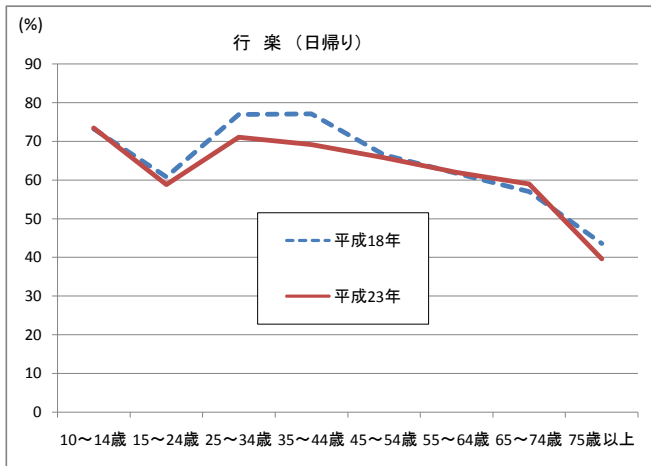


- (6) 「旅行・行楽」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳（84.9%）、女性は45～54歳（85.5%）で最も高い。行動者率は、10～14歳と75歳以上を除き、女性が男性を上回っている。(図34)



- (7) 「旅行・行楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、行動者率は、35～44歳で「行楽（日帰り）」、国内/1泊2日以上の「観光旅行」・「帰省・訪問などの旅行」及び「業務出張・研修・その他」で、特に低下している。（図35）

図35「趣味・娯楽」の主な種類の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）



※ 詳しくは、総務省統計局HP 社会生活基本調査のページをご覧ください。
<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>